

わが国の慢性透析療法の現況 (2018年12月31日現在)

新田 孝作¹ 政金 生人¹ 花房 規男¹ 後藤 俊介¹
 阿部 雅紀¹ 中井 滋¹ 谷口 正智¹ 長谷川 毅¹
 和田 篤志¹ 濱野 高行¹ 星野 純一¹ 常喜 信彦¹
 三浦 健一郎¹ 山本 景一¹ 中元 秀友²

¹日本透析医学会統計調査委員会 ²日本透析医学会理事長

〈要旨〉

日本透析医学会統計調査 (JSDT Renal Data Registry: JRDR) の2018年末時点における年次調査は、4,458施設を対象に実施され、施設調査票に関しては4,402施設 (98.7%)、患者調査票に関しては4,222施設 (94.7%) のほぼ例年通りの回答を得た。わが国の透析患者数は年々増加し、2018年末の施設調査結果による透析患者数は339,841人に達し、人口百万人あたりの患者数は2,688人であった。患者調査結果による平均年齢は68.75歳で、最も多い原疾患は糖尿病性腎症 (39.0%)、次いで慢性糸球体腎炎 (26.8%)、第3位は腎硬化症であった (10.8%)。糖尿病性腎症の比率は昨年と同じであった。2018年の施設調査結果による透析導入患者数は40,468人であり、2017年から491人減少した。患者調査結果による透析導入患者の平均年齢は69.99歳であり、原疾患では糖尿病性腎症が最も多く42.3%であったが、昨年より0.2%少なく、糖尿病性腎症による年間導入数はプラトーに達していると思われる。2018年の施設調査結果による年間死亡患者数は33,863人であり、年間粗死亡率は10.0%であった。主要死因は心不全 (23.5%)、感染症 (21.3%)、悪性腫瘍 (8.4%) の順で、昨年とほぼ同じ比率であった。2012年以降、血液透析濾過 (HDF) 患者数は急増しており2018年末の施設調査票による患者数は125,793人で、維持透析患者全体の37.0%を占めた。腹膜透析 (PD) 患者数は9,445人であり2017年から増加傾向にある。腹膜透析患者のうち19.7%は血液透析 (HD) やHDFとの併用療法であり、この比率はほぼ一定していた。2018年末の在宅HD患者数は720人であり、2017年末から36人増加した。2018年調査では患者動態に加えて、糖尿病治療の現状、認知症併発状況、生活活動度、運動習慣、肝炎ウイルスの保有状況などが調べられた。今後これらのさらなる解析結果が報告される予定である。

2018 Annual Dialysis Data Report, JSDT Renal Data Registry

The annual survey of Japanese Society for Dialysis Therapy Renal Data Registry (JRDR) was conducted for 4,458 dialysis facilities at the end of 2018 among which 4,402 facilities (98.7%) responded to the facility survey and 4,222 facilities (94.7%) responded to the patient survey. The number of chronic dialysis patients in Japan continues to increase every year; it has reached 339,841 at the end of 2018 and the prevalence rate of the dialysis patients was 2,688 per million population. The mean age of the prevalent dialysis patients in the patient survey was 68.75 years. Diabetic nephropathy was the most common primary disease of the prevalent dialysis patients (39.0%), followed by chronic glomerulonephritis (26.8%) and nephrosclerosis (10.8%). The distribution of diabetic nephropathy in primary disease was the same as in 2017 and has become plateau. The number of the incident dialysis patients during 2018 was 40,468; it was decreased by 491 from 2017. The average age was 69.99 years and diabetic nephropathy (42.3%) was the most common cause in the incident dialysis patients. The distribution of diabetic nephropathy in the primary disease did not change for recent several years. 33,863 patients died in 2018; the crude annual mortality rate was 10.0%. The 3 major causes of death were heart failure (23.5%), infectious disease (21.3%) and malignancy (8.0%). The patients treated by hemodiafiltration (HDF) have been increasing rapidly since 2012. It has reached to 125,793 patients by the end of 2018, which was accounted 37.0% of all dialysis patients. The number of peritoneal dialysis (PD) patients was 9,445 in 2018, which has been slightly increased since 2017. 19.7% of PD patients treated in the combination or hybrid therapy with hemodialysis (HD) or HDF. 720 patients were treated by home HD therapy at the end of 2018; it increased by 36 from 2017. In the 2018 survey new items were added to the conventional items such as treatments for diabetes, prevalence of dementia, daily physical activities and regular exercise habits. Further analysis of these items will be reported in another form in the future.

I. 2018年日本透析医学会統計調査報告書 総論

緒 言

一般社団法人日本透析医学会は、1968年から毎年末時点におけるわが国の慢性透析療法の現況を調査しており（JSDT Renal Data Registry：JRDR と称す）、この調査では全国の透析療法施設のほぼすべてが対象施設になっている^{1,2)}。本調査は関係施設の無償の協力で行われているにもかかわらず、ほぼ全数調査ともいえる回収率であり、文字通りバイアスのないわが国の慢性透析の現況を表しており、このような調査は世界でも希である。

JRDRの年次報告は、2017年調査結果からフルカラーで次年の本学会和文誌12号に掲載され、それにともない従来の図説現況報告が廃止された。また、日本透析医学会は2017年にウェブ上で自ら条件設定を行い、帳票出力を随意に行えるシステム（Web-based Analysis of Dialysis Data Archives system: WADDA system）を稼働させた³⁾。このシステムにより、会員のJRDRの調査結果利用の利便性が飛躍的に高まり、学会員は常に最新のデータを用いた解析を行うことが可能になった。これに伴い現行の「わが国の慢性透析の現況CD-ROM版」の発行は、2019年の調査結果報告をもって修了する予定である。

2018年は、ここ数年で治療薬に大きな進歩があった糖尿病治療と肝炎ウイルスについて詳細な調査を行った。また、透析患者の高齢化を背景に、最近大きな課題となっている認知症と日常活動度、運動習慣について調査を行った。今後これらのデータを解析することにより、よりQOLの高い透析管理、治療パターンの提案が期待される。

日本透析医学会統計調査の倫理的基盤

JRDRは、2014年12月に厚生労働省と文部科学省から発布された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」⁴⁾と、2017年2月の改正倫理指針⁵⁾に準拠して行われている。その実施計画書の基本となる倫理的配慮、個人情報保護に対する考え方は、2015年3月の倫理委員会において承認された（日本透析医学会倫理委員会承認番号1）。

2018年の統計調査実施計画における、調査内容の修正等については、2019年1月28日の倫理委員会において承認され、UMIN臨床試験登録システム上で公開された（UMIN000018641）⁶⁾。

調査方法

1. 調査票の送付と回収

JRDRには透析ベッド数、患者数、透析液水質管理状況などを調べる施設調査票と、その透析施設の個々の患者の透析条件や検査所見、アウトカム指標などを調べる患者調査票の2種類がある。2018年の統計調査では、Excelで作成された施設調査票と匿名化された2017年の患者調査票が格納されたUSBメモリを、2018年12月に全国の透析施設に郵送した。各透析施設は2015年に送付した対応表USBメモリを用い実名復元を行った上で、生存死亡、転院などの転帰記載やその他のデータの更新を行った。さらに新規患者の登録を行い、すべての患者の記載が終了した時点で、再度対応表USBメモリを用いて匿名化処理を行った。各透析施設は患者個人情報が完全に匿名化されたことを確認した後、調査票USBメモリのみを透析学会本部に返送した。データの初回締め切りは2019年1月31日に設定したが、その後返送のない施設への調査協力督促を行い、6月18日の最終回収をもって2017年末データへの組み入れを終了した。

2. 調査項目

2018年調査では以下の項目が調査された。

■施設調査

1. 施設概略・規模

- ・施設コード，施設名，透析開始年月
- ・透析能力：ベッドサイドコンソール台数，同時透析能力，最大収容能力，ET フィルター装着コンソール台数

2. 患者動態

- ・2018年末透析患者数（治療方法別患者数（入院・通院））
- ・2018年透析患者数のうち夜間透析患者数
- ・2018年新規導入患者数（HD（F）で新規導入した患者数，PDで新規導入した患者数）
- ・2018年死亡患者数

3. 透析液水質管理状況

- ・透析液エンドトキシン濃度測定頻度とエンドトキシン濃度
- ・透析液細菌数測定頻度と細菌数
- ・透析用水のための供給水源
- ・残留塩素測定頻度と測定方法
- ・日本透析医学会水質基準（化学的汚染基準）の認知，測定頻度

■患者調査

1. 患者固有情報

- ・性別，生年月日，導入年月，原疾患，在住県，転入年月，転入前施設コード，転帰区分，（転出・死亡・離脱・移植）年月，転出先施設コード，死因，患者情報変更/訂正区分，治療方法，HD/HDF等とPD併用療法の状況，PD経験の有無，腎移植の回数，

2. HD/HDF の治療条件

- ・週透析回数，1回透析時間，血流量
- ・HDF：希釈方法，1セッションあたりの置換液量
- ・身長，透析前後体重，透析前収縮期血圧，透析前拡張期血圧，透析前脈拍

3. 検査所見

- ・透析前後血液尿素窒素濃度（BUN），透析前後血清クレアチニン濃度，透析前血清アルブミン濃度，透析前血清C反応蛋白（CRP）濃度，透析前血清カルシウム濃度，透析前血清リン濃度，血清副甲状腺ホルモン（PTH）値測定方法，PTH濃度（intact PTH・whole PTH），透析前ヘモグロビン濃度，血清総コレステロール濃度（総コレステロール），血清HDL-コレステロール濃度（HDL-C），ALT（GPT），HBs抗原，HCV抗体，HCV-RNA（抗体+の場合），随時血糖値，グリコアルブミン，HbA1c

4. アウトカム因子

- ・降圧薬内服の有無，喫煙の有無，糖尿病の既往の有無，虚血性心疾患の既往，脳出血の既往，脳梗塞の既往，四肢切断の有無，大腿骨近位部骨折の既往，被嚢性腹膜硬化症（EPS）の既往，手根管解放術の既往，インスリン使用の有無，DPP-4阻害薬使用の有無，GLP-1受容体作動薬使用の有無，その他の糖尿病治療薬使用の有無，認知症の有無，生活活動度，運動習慣

5. 腹膜透析調査

- ・治療歴：現在施行中の腹膜透析（PD）透析歴，2018年中のPD実施月数
- ・腹膜機能：腹膜平衡試験（PET）施行の有無，PET4時間値における透析液中クレアチニン濃度と血液クレアチニン濃度の比（PET Cr D/P比）
- ・透析処方：イコデキストリン透析液使用の有無，1日のPD透析液使用量（PD液使用量），1日尿量（尿量），1日平均除水量（除水量），残存腎によるKt/V（残腎Kt/V），PDによるKt/V（PD Kt/V）

- ・透析方法：自動腹膜透析装置（APD）使用の有無，PD 透析液交換方法
- ・感染症：年間腹膜炎罹患回数（腹膜炎回数），年間出口部感染罹患回数

3. 調査票回収状況

2018年の調査は全国4,458施設を対象に実施され，施設調査票に関しては4,402施設（98.7%）から回答が得られた。施設調査票の回収施設は前年比42施設増，1.0%増であった。患者調査票に関しては4,222施設（94.7%）から回答が得られた。